

# 行歯会だより (第5号)

2005年10月 (毎月発行)

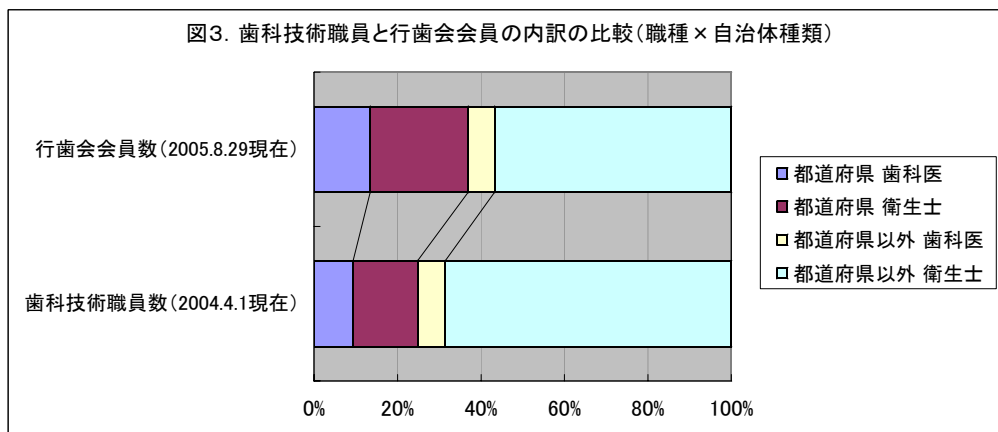
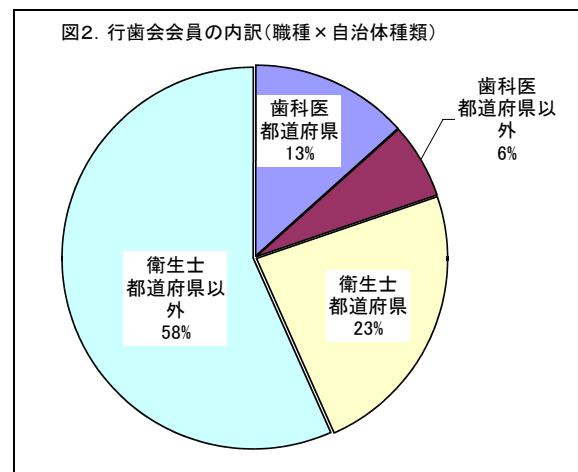
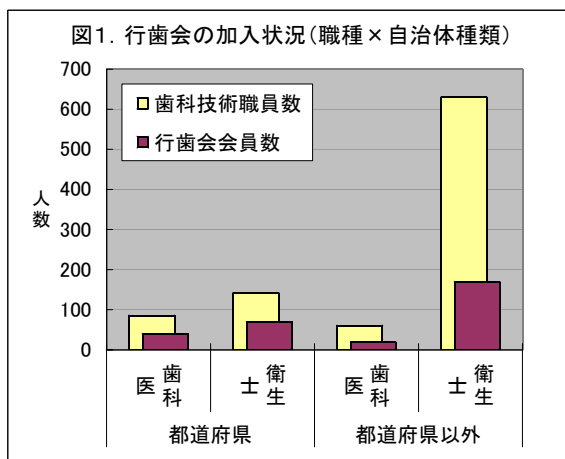
(行歯会=全国行政歯科技術職連絡会)

## ●歯科技術職の「行歯会」への加入状況は？ —自治体種類・職種別にみると—

前号(4号)で紹介した「行歯会」加入率のブロック別比較に引き続き、自治体種類別(都道府県 vs 都道府県以外)および職種別(歯科医師 vs 歯科衛生士)の加入状況について検討してみました。

その結果、自治体種類別では都道府県が都道府県以外よりも高く(48% vs 27%)、職種別では歯科医師が歯科衛生士よりも高い(40% vs 31%)ことが明らかになりました。

また、図1は職種と自治体種類別にみた歯科技術職員数(2004.4.1現在)と行歯会会員数(2006.8.29現在)を比較したものです。図2は行歯会会員数の職種・自治体種類別にみた内訳を示したもので、図3はこれを歯科技術職員数と比較したものです。



## ●お知らせ

第2号で行歯会メーリングリストの「アドバイザー」を紹介する「行歯会だより」臨時増刊号を発行する旨をお伝えしましたが、近々発行する予定です。

花田信弘・今井 奨・安藤雄一(国立保健医療科学院)、青山 旬(栃木県立衛生福祉大学校)、田口千恵子(日大松戸歯学部)、杉原直樹(東京歯科大学)、隅田好美(新潟大学歯学部・口腔生命福祉学科)、吉田直美(東京医科歯科大学・口腔保健学科)、佐々木好幸(東京医科歯科大学歯学部)、森下真行(広島大学大学院医歯薬学総合研究科)、内藤 徹・渡辺 猛(福岡歯科大学)、川崎浩二(長崎大学医学部・歯学部付属病院)、井手玲子(産業医科大学産業生態科学研究所)、石田瞭(岡山大学医学部歯学部付属病院)

## ●理事のひとり言（その1）：学会へのひとり言

北海道苫小牧保健所 主任技師(歯科医師)

佐々木 健



秋は学会のシーズンですね。筆者は全国規模の学会には4つの会に所属しています。卒後間もない頃は、学会は行くだけで大変新鮮で刺激の多い場でした。しかし、卒後約20年たつと、学会慣れしてきて、発表の際にさほど緊張することもない反面、物足りなさを感じるようになっていきます。

そう感じる原因のひとつは学会の運営方法にあります。特別講演、シンポジウム等のセッションが多過ぎ、それらが相互に、あるいは一般演題の口演や示説発表と同時並行に開催されることも慣例化しており、参加したいセッションが重複してしまうことが珍しくありません。学会としての体裁をよくしたい、特別講演等いろいろなセッションを採り入れることで参加者数の増加を期待したいなど諸般の事情があることも理解できます。マンモス学会ともなると、あえて複数のセッションを同時に行って参加者を分散しないと、会場のキャパシティに収まらないのかもしれませんが。

さてそこで、今後の学会運営に関し、個人の勝手な希望を言わせてもらえば、次の2点に集約されます。

- (1) 特別講演、シンポジウムなどを思い切って減らし、もっと一般演題の発表を重要視(優先)してほしい
- (2) 議論しやすい場の設定や運営上の工夫をしてほしい

同じような問題意識を持つ方はいるようで、去る8月下旬に福岡市で開催された「第14回日本健康教育学会([http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/p\\_health/p\\_jshe14/index-j.htm](http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/p_health/p_jshe14/index-j.htm))」では、通常的口演発表形式に加え「ラウンド・テーブル・セッション(以下、RT)」という発表形式が大幅に導入され、2日間の学会日程の中で70分のセッションが計3回実施されました。

RTとは一人の演者と何名かの参加者が共に円卓を囲み、発表テーマに即して自由に意見を交換する形式をい

います。上座/下座が生まれやすい方形テーブルに比較して、着席者に序列が付かない円卓では、参加者間に仲間意識が生まれやすく、欧米では学会発表の一形式として定着しているともいわれています。「○◇のような結果が出ました」と研究成果を報告するだけでなく、「今、◇○のようなことで悩んでいます、解決策は？」と現場での課題、研究上の疑問などを持ち寄り、参加者みんなで考えることができます。RTは、座長や進行役(コーディネータ)は原則的には必要ないそうですが、今回は多くの参加者にとって慣れない形態のため、演者や参加者が戸惑う可能性に配慮し、各テーブルに進行役が配置されました。このように参加者同志の活発な交流と討論をファシリテートする試みがなされたのです。

学会では、よく休憩時間やアフター5に、顔見知りやあるいは偶然開催中に知り合いになった人たちと熱く議論や意見を交すことが少なくありません。RTは、それを正規の学会の時間の中で行うイメージを持ってもらうとよいでしょう。小グループのケース検討、カンファレンス、ゼミ等でみなさんもRTまたはそれに近い体験をお持ちであろうと思います。ルールやマナーが不徹底ですと逆効果となることもありますので、痛い目に遭い、よい印象をお持ちでない方もいるかも知れません。幸い今回は、事前に事務局からファシリテーターを指名し、ホームページ等で参加者へRTのルールをアナウンスしたこともあり、建設的な議論が交わされたようです。RTは、健康教育学会の参加人数や一般演題数が公衆衛生学会や口腔衛生学会等から比べると小さいから可能であったともいえますが、活気があり、参加者にとって刺激の多い学会に発展するためには有用な運営方法のひとつであるという手応えを感じて帰ってきました。

行歯会では、学会のあり方も議論していければと考えています。

●事業紹介(隔月連載)

## 滋賀県歯科保健将来構想と歯科保健関係資料集を ホームページにアップしましたよ!



滋賀県歯科保健将来構想

滋賀県大津健康福祉センター 井下英二  
滋賀県健康福祉部健康推進課 那須保代

滋賀県では、歯科保健将来構想「歯つらしが」に加えて、平成5年度より毎年、歯科保健に関する資料をオールインワン方式で1冊にまとめ、歯科医師会、学校関係者、市町村等に配布してきました。これさえあれば、地域課題の抽出、行政施策の評価はもとより事業の企画、予算折衝まで歯科保健のことならなんでも事足りることをポリシーとしています。

この度、滋賀県のホームページにアップしましたので一度覗いて見てください。

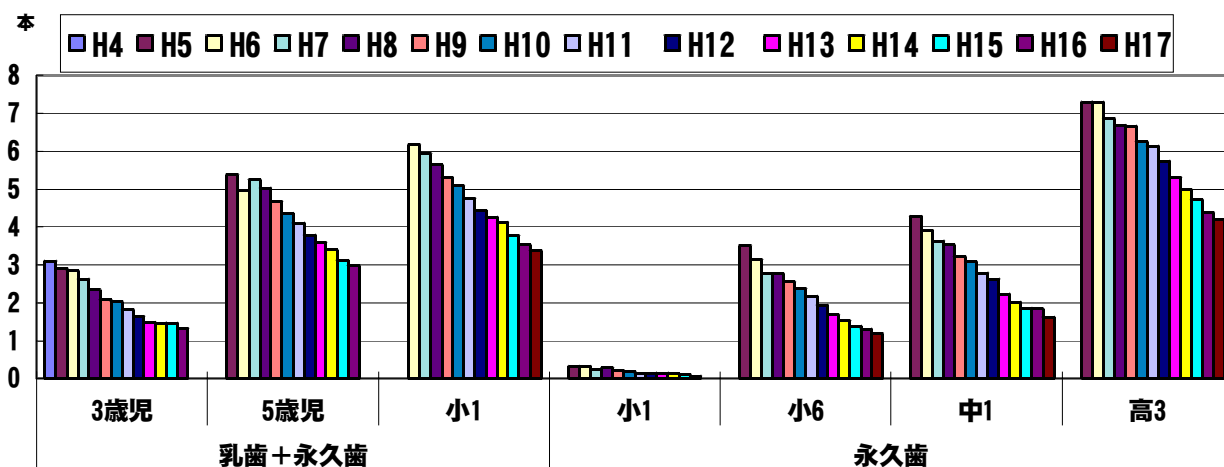
<http://www.pref.shiga.jp/public/kenko-t/hatsuratsu/shuseigo/data/index.html>

売りは、母子については、市町村別3歳児d f 歯数の推移グラフ、学校については、小学校1年生、6年生、中学校1年生の市町村別、学校別のDMFT歯数の推移グラフです。

その他にも、市町村別歯科保健事業実施状況や介護保険居宅療養管理指導実績なども記載しています。また、滋賀県では巡回歯科保健指導事業として就学前の障害児児童デイサービスにおいて、歯科健診、歯科保健指導、F塗布を行っています。その施設関係者へのアンケート結果も興味深いですよ。

そこに載せているグラフに最新のデータを加えて以下のグラフをつくりました。ちなみに、H16の3歳のdftが1.33、DMFTでは、H17の小学校6年生が1.16、中学校1年生が1.62、高校3年生が4.21でした。H5当時の中学校1年生のDMFTが4.28だったので、H17の高校3年生は、H5の中1よりう蝕が少なくなりましたよ。

滋賀県の幼児・児童生徒の一人平均う歯数の推移 (H4~H17)



## ●メーリングリストの話題から

長 優子(東京都江戸川区鹿骨健康サポートセンター歯科衛生士)

朝夕はだいぶ涼しくなり、秋の訪れを感じる今日この頃です。皆様におかれましては、次年度の事業計画や予算要求等、ますます忙しくご活躍のことと存じます。行歯会メーリングリストにも、予算編成の参考にと質問メッセージが届いています。今後も多くの方々の投稿をお待ちしております。

9月に話題になった主な内容をまとめてみました。

- 高齢者施設における口腔ケアの実施状況、摂食・嚥下機能訓練の実施状況等のデータについて→
  - ・北原先生よりアドバイスをいただきました。(ブリーフケース>介護予防>神奈川県北原先生提供資料>プレゼン資料参照)
  - ・平成16年度 指定認知症対応型協働生活介護施設を対象とした口腔ケアに関する調査(日本歯科衛生士会)参考
- 「口臭測定器」を用いた公衆衛生事業について→情報提供お待ちしております!
- 厚労省老健局概算要求資料「地域支援事業交付金」について
- 東京都「西暦2010年の歯科保健目標」の達成度中間評価報告書→  
概要は下記で見ることができます。  
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/isei/news/pressisei050902.html>  
報告書は下記からダウンロードできます。  
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/isei/shika/chukan.html>
- 全国保健所長会のホームページ紹介→<http://www.phcd.jp/>
- フッ素洗口の第一大白歯での評価について
- 榊原悠紀田郎先生著「歯の星のとき」総集編をブリーフケースにアップロードしました。
- 歯科臨床研修医のプログラムについて情報交換がされました。
- 介護予防モデル事業報告書(S市)をブリーフケースの「介護予防」フォルダにアップロードしました。
- 滋賀県「滋賀県の歯科保健関係資料集」→下記のアドレスに掲載しました【2頁の「事業紹介」を参照】。  
<http://www.pref.shiga.jp/public/kenko-t/hatsuratsu/shuseigo/data/index.html>
- 口腔機能向上アセスメント票バージョンアップ版  
→ブリーフケースの「介護予防」フォルダ>神奈川県北原先生提供資料にアップロードしました。  
ご意見お待ちしております。
- 歯みがきとむし歯のエビデンスについて→アドバイザーの青山先生よりコメントをいただきました。
- 全国介護保険・老人保健事業担当課長会議資料(平成17年9月26日)  
→下記アドレスから、ダウンロードできます。  
<http://www.wam.go.jp/wamappl/bb05Kaig.nsf/vAdmPBigcategory20/DAA435584B87D6BE4925708800189AD3?OpenDocument>
- 滋賀県「歯科保健目標値に健口寿命」→なにか良い案があればお聞かせください。
- 休日歯科対策について

※いつも多くの貴重な情報をお寄せいただいている大阪の大西先生よりお知らせです。

- 大西先生がアップロードされた資料につきましては、原則「15日」を経過したものは、削除することとします。(ブリーフケースの容量により)
- 資料が必要な方は、早めに、ご自分の端末等に、ダウンロードしていただきますようお願いいたします。

## ●お知らせ

### ・第54回日本口腔衛生学会・総会

H17.10.6(木)～8(土) 於東京都品川区

テーマ 「地域口腔保健の近未来」

詳細：<http://pcp.kyorin.ne.jp/dh54/>

### ・国立保健医療科学院の歯科衛生士研修

受講期間：H18.1.23日(月)～2.7(火)

申込期間：H17.10.3(月)～11.2(水)

詳細：<http://www.niph.go.jp/entrance/index.html>

### ・むし歯予防全国大会

期日：H17.10.15(土)

会場：香川県高松市(サンポート高松、シンボルタワー・国際会議場)

内容：特別講演Ⅰ「フッ化物と健康～フッ化物を正しく理解するために～」  
小林 清吾(日本大学松戸歯学部社会口腔保健学講座・教授)

特別講演Ⅱ「データから考える歯科保健」  
真鍋 芳樹(香川大学アドミッションセンター・教授)

シンポジウム「地域住民を主役とした健康づくりのためにーフッ化物の正しい情報を提供する」

詳細 <http://www8.ocn.ne.jp/~nichif/>

### ・全国歯科保健推進研修会

期日：H17.11.11(金) 13:00- (※ 翌12日は全国歯科保健大会)

会場：新潟市朱鷺メッセ

内容：

講演 「要介護者の口腔ケア(行政・医療機関・病院等の連携を通じて)」(仮題)  
大内 章嗣(新潟大学大学院医歯学総合研究科教授)

「介護予防における口腔機能向上」(仮題)

北原 稔(神奈川県茅ヶ崎保健所保健福祉事務所保健福祉課長)

グループ討議「介護予防における口腔機能向上を図るために」

特記事項： 本研修会終了後、各都道府県歯科医師会関係者と行政関係者の懇親会を予定(朱鷺メッセ最上階)。

### ・第26回全国歯科保健大会

日時 平成17年11月12日(土) 午後

会場 新潟県新潟市 朱鷺メッセ(新潟市万代島)

内容：

①特別講演 「歯と無重力」毛利 衛(宇宙飛行士)

②シンポジウム 「みんなで取り組む歯科保健」

基調講演 花田 信弘(国立保健医療科学院・口腔保健部長)

シンポジスト 葭原 明弘(子供の歯を守る会実行委員長、新潟大学大学院医歯学総合研究科助教授)

深井 穂博(深井保健科学研究所所長)

大久保 満(静岡県歯科医師会会長)

コーディネーター 石上 和男(新潟県福祉保健部健康対策課長)

詳細 <http://www.jda.or.jp/jp/sikahokn.htm> <http://www.ha-niigata.jp/zenho/info/index.html>